

## 日本リンパ網内系学会・プログラム委員会議事録

日時：平成 18 年 7 月 1 日（土）

場所：名古屋国際会議場 3 階小会議室

出席者（50 音順）：浅野重之（いわき市立総合磐城共立病院病理科），稲垣 宏（名古屋市立大臨床病態病理学），川田浩志（東海大学血液腫瘍内科），木村暢宏（福岡大学第一内科），田丸淳一（埼玉医科大学総合医療センター病理部），新津 望（埼玉医科大学血液内科），山口一成（国立感染症研究所血液・安全性研究部）

まず川田より，

- 1) 来年度の第 47 回日本リンパ網内系学会は国立機構名古屋医療センター長の堀田知光先生を会長として平成 19 年 5 月 24 日（木）～26 日（土）にかけて兵庫県立淡路夢舞台国際会議場において開催すること，そして東海大学医学部内科学系血液腫瘍内科との共同で開催するにあたり同内科が事務局を担当することを報告した。
- 2) ついで 6 月 30 日に，名古屋国際会議場 3 階小会議室において来年度の学会開催準備委員会スタッフによってまとめられた開催構想案の報告を行った。

その結果，来年度の第 47 回日本リンパ網内系学会に関して，プログラム委員全員より活発に以下のような意見が出された。

- (1) 今まで以上にもっと若手が参加できる企画にしたい：若手の会員が少ないことは学会のアクティビティ低下につながり，将来のためにも若手をもっとこの分野にリクルートできるような企画を織り込みたい。たとえば Meet the expert や，教育セミナー，小グループでの討論（早朝あるいは夜）の場合，学生が発表できる場などを設けるなど。症例検討も特殊症例のみではなく，教育もかねてもっと一般的な症例を盛り込んではどうか。
- (2) もっと本学会の特色を前面に出した企画を設けられないか：リンパ網内系を専門とする臨床医と病理医と一緒に参加している本学会ならではの企画，ともに参加して役に立つ企画。たとえば“臨床医が聴きたい病理学”あるいは“病理医が聴きたい内科学”など。
- (3) 学会発表・討論をより活性化したい：プログラム委員会による一般演題の選定を行い，優秀演題のポスター掲示や口演を企画してはどうか。診断や治療などを考えさせる症例（若手参加も考慮して難易度の異なるいくつかの症例）を会場に掲示しておいて，のちに時間を設けて討論を行ってはどうか。
- (4) 会期について：HTLV-1 に関する国際学会が平成 19 年 5 月 22 日～25 日にかけて箱根において開催されるので，より多くの第 47 回日本リンパ網内系学会への参加を期待するためにも，可能であれば会期を平成 19 年 5 月 25 日（金）～27 日（日）にずらしたほうがよいのではないか。

以上，学会を今後ますます活性化させるために重要な意見であると考えられるため，これらは第 47 回日本リンパ網内系学会開催準備委員会で検討して頂くとともに，プログラム委員会としても学会を一層充実させるべくメーリングリストを作成して以後も検討を続けていくこととなった。

（文責：川田浩志）